「東日本大震災と三陸鉄道」

三陸鉄道株式会社 運行本部長

こん の じゅん いち

金 野 淳 一

1 会社概要

三陸鉄道は日本初の国 鉄線からの転換第三セクタ 一鉄道として誕生しました。

「三陸鉄道」の名前が初めて 登場するのは明治29年に遡り ます。

当地方では明治29年6月に 発生した"三陸大津波"により多くの犠牲者を出しましたが、その 復旧対策として当時の逓信大臣 に「三陸鉄道株式会社の創立申 請趣意書」が提出されたのでした。それから数えること88年後 の昭和59年4月1日に、地 元の方たちが待ち望んでいた「おらが鉄道」として開業 したのでした。

本州最東端の宮古市に本社を置き、路線は南リアス線36.

6キロメートルと北リアス線71. 0キロメートルの2つ。南リアス線に10、北リアス線には16の駅があります。風光明媚なリアス海岸を走ることからトンネル数は62、橋梁等は196もあります。

開業した昭和59年は、多くの地元のお客様にご乗車いただいたうえ、"全国初の 第三セクター鉄道"ということで話題を呼び全国からお客様が押し寄せたことにより、 乗客数は269万人を記録しました。

開業以来、地域の皆様の足として、通院、通学、買い物などにご利用いただいています。

特に、ご高齢の方たちにとって無くてはならない存在となっていて、列車から降りられる際には、お客様からお礼の言葉をいただくことも度々あります。

沿線の方たちとの結びつきも強く、三鉄 友の会や三陸鉄道を勝手に応援する会 など、応援してくださる方がたくさんいらっ しゃいます。

しかし、沿線の人口減少やマイカーの 普及により乗客数の減少が続き、平成21 年度の輸送人員は、85万人となってしま いました。

2 イベント企画

当社では開業当初から、お客様に喜んで いただけるような様々なイベントを企画してま いりました。

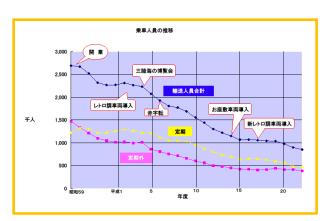
当初は一般車両を使用していましたが、現 在はイベント用としてお座敷車両「さんりく・し おかぜ」とレトロ調車両「さんりくしおさい」とい う2タイプの車両を導入しています。

お座敷車両は番屋(漁師が浜で漁の準備 等に使用する小屋)をコンセプトに、車内を畳 敷きの掘りごたつ風に改造した車両です。ア ワビやホタテの貝殻が入った網や浮き玉が車 内を飾っています。レトロ調車両は豪華でゆ とりのある車内を目指して製作した車両で、 照明はシャンデリア、ソファをイメージした広く 豪華な座席、木目調の壁や床など特別装備 満載となっています。

これらの車両を使用して季節ごとに歓送迎 会列車、ひな祭り列車、お花見列車、花見カ キ列車、納涼列車、七夕列車、月見列車、ク リスマス列車、忘年会列車、初詣列車、新年 会列車などを運転しています。

"列車の中で結婚式を挙げたい"というお 客様のご希望に応じて、車内で結婚式や披 露宴を行ったこともあります。

結婚式列車では神主さんが列車に乗り込 み、厳かな雰囲気の中での運転となります。 披露宴列車では車内に高砂の席を用意して、









お か ぜ

調



車 両 さ ん IJ お さ



参加者皆さんで新郎新婦をお祝いします。

冬場の名物列車として、毎年12月から翌年3月までは"こたつ列車"を運転しています。お座敷車両の堀ごたつにこたつ布団と天板をセットしてお客様をおもてなしする列車です。

三陸の食材をふんだんに使ったこたつ列車専用のお弁当も用意していますし、こたつに載せた籠の中にはみかんや地元特産の菓子などが盛られていて、お客様は自由に食べられるようになっています。のんびりと景色を眺めているとトンネル内で突然明かりが消えて"なもみ"という地元に伝わる鬼たちが登場し「悪い子はいねぇが一」と大声で尋ねながら車内のお客様を驚かせて歩きます。



こたつ列車の模様

地域の方たちが自分たちで作った特産品を持ち込み販売するのが"産直列車"です。時には運転士が漁師の格好になって沿線ガイドを努めて車内を盛り上げたりしています。乗車したお客様は、買い物に夢中で、席に着く暇もないようです

お客様に参加していただけるようなイベントも企画していて、鉄道むすめ"久慈ありす" "釜石まな"が活躍する三鉄祭りや健康ウォーキングなどを開催しています。

会社で企画するイベントだけではなく、地域の方が三陸鉄道を巻き込んで企画するイベントも数多く開催されています。

様々な取組みを行った結果、観光のお客 様は順調にその数を伸ばしてきました。





鉄道むすめ: 久慈ありす(左)と釜石まな(右)

3 東日本大震災

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、当社でも大きな被害を被ることになってしまいました。

(1)列車の状況

地震発生当時は、南北リアス 線にそれぞれ1本ずつ列車が 運転中でしたが、地震発生と同 時に無線により停止を指示しました。

年度	人数
11年	9,271
12年	10,631
13年	14,708
14年	17,156
15年	23,837
16年	34,393
17年	42,235
18年	53,922
19年	84,033
20年	70,492
21年	83,973
22年	76,918
23年	7,187

80,000												_	
70,000									4			П	
60,000									+			Н	
50,000								\blacksquare	- 1			Н	
40,000							-	+	-			Н	
30,000						$-\Box$	\pm	+	+			Н	
20,000				_	$-\Box$	-	-	+				н	
10,000			\blacksquare	Н	+	+	Н	Н	Н			Н	H
0	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	204	215	F 22	年 23年
							年度						

団体利用人員

南リアス線では、乗客2名を乗せて吉浜駅から唐丹駅に向かっていた列車がトンネル内に

緊急停止しました。

連絡が途絶えた運転士は、余震が続く中、お客様と共にトンネルを脱出し、近くの国道を走っていた乗用車に便乗させていただいて、無事にお客様を避難所まで送り届けることができました。

トンネルの先にあった橋梁や駅は津波に襲われ流失してしまったので、もしタイミングがずれていたら大惨事になるところでした。

北リアス線では、乗客15名を乗せて運転中の列車が無線連絡により緊急停止したのですが、運転士は標高が高く津波の心配はないと判断し乗客に車内で待機していただくよう説明しました。お客様には長時間にわたって車内で過ごしていただきましたが、エンジンがあることが幸いして照明、暖房が使用できたことに加え、ジュースの自動販売機も設置していたので、落ち着いた様子で救出を待っていただくことができました。

消防に乗客の救済を依頼しましたが、全員を避難させることができたのは19時30分になっていました。

(2)被害の状況

地震後、大津波警報が発令され、社員も避難所等に避難しました。

その後、各地に津波が押し寄せ、地震と津波による線路設備の被害は、南リアス線で247 ケ所、北リアス線で70ヶ所に及び、全線で運転不能となってしまいました。

車両は盛駅構内に留置していた3両が床下まで浸水し走行不能となりました。



北リアス線 島越駅付近

南リアス線 三陸駅付近

4 運転再開

地震発生から2日後の3月13日朝、津波警報から津波注意報に変わったのを受けて、直ちに北リアス線の線路状況を確認しましが、この時に初めて津波で線路が流されてしまっていることがわかり呆然としてしまいました。

しかし我々には落胆している時間はありませ んでした。

被災された地域の方たちは、家や車を流され道路もなくなっていたので、線路の上を歩か



北リアス線 旧老駅

ざるを得ない状況でした。その姿を見て、何とか 1 日でも早く列車を走らせることはできないかと社内で検討し、津波による被害を受けていない箇所から点検並びに整備を行って、順次運転再開することを決定しました。

早速14日から線路の点検を行うとともに、沿線の自治体に瓦礫の撤去と道路の確保をお願いしました。外部の協力を得ながら線路の点検と修復作業を行い、地震発生から5日後の3月16日には、久慈駅~陸中野田駅間の運転を再開することができました。

地域の復興に少しでも寄与したいとの思いから列車名を「復興支援列車」とし、運賃は当面無料にしました。

運転再開の一番列車はお客様10名と報道関係者を 乗せて久慈駅を無事出発して行きました。車内にはお互 いの無事を確認し、喜び合う声が飛び交っていました。お 客様たちのホッとしたような笑顔を見たときは、列車を走 らせることのできる喜びで胸がいっぱいになりました。



災害復興支援列車 (車体と車内の様子)



運転再開時の時刻表

1D	3D	5D	駅名	2D	4D	6D
9:00	13:00	17:00	陸中野田	8:30	12:30	16:30
9:10	13:10	17:10	陸中宇部	8:20	12:20	16:20
9:30	13:30	17:30	久 慈	8:00	12:00	16:00

その後も急ピッチで線路の修復作業を進め、3月20日に宮古駅~田老駅間、3月29日に田老駅~小本駅間の運転を再開することができました。

この頃、多くのお客様から「「こんな汚い恰好で乗車して良いですか?」と聞かれました。被 災した家の片づけや行方の分からない方の捜索にあたっていた皆様は泥にまみれていました。 しかし車内が汚れたら掃除をすれば良いだけなので、そのままご乗車いただきました。また、 危険物以外なら何でも持込み OK にしていました。

運転を再開したものの、途中の線路が分断された宮古駅~小本駅間には、車両が1両しかありませんでした。

被災された方たちがたくさん利用していただいたことに加え、運転区間の延長や学校の始業により利用客が増加し、たいへん混雑するようになったので、久慈にある車両2両をトレーラーにより宮古方に移送しました。

こうして朝の通学列車を2両編成として、混雑解消を図ることができました。



5 全線復旧に向けて

平成23年11月には国からの支援をいた だけることが決まり、本格的な復旧工事を開 始しました。

これにより平成24年4月に北リアス線の 田野畑駅~陸中野田駅間の運転を再開する ことができました。現在列車の運転を行って いるのは北リアス線の宮古駅~小本駅間と 田野畑駅~久慈駅間で全線の57%になり ました。

また2月には被災して使用できなくなった 車両に替わって、クウェート国からの支援に より購入した新車両3両が到着しました。

震災後は、本当に多くの方々から様々なご支援、応援をいただき「1日も早く全線復旧して列車を走らせてほしい」との声もたくさん寄せられました。列車が走っていないにもかかわらず、地域の方たちが駅舎の清掃や草取り、ペンキ塗りや除雪まで行っていただきました。



北リアス線 陸中野田駅付近



新車両 36-700形

運転再開を待ち望んでいる地域の方たちの熱い思いに応えるべく、1日も早い全線復旧に向けて全社員が一丸となって取り組んでいます。

この後、平成25年4月に南リアス線の盛駅~吉浜駅間の運転を開始し、平成26年4月には 全線で運転を再開する予定です。

震災以来、地元をはじめ多くの方々にたいへんなご迷惑をおかけしていますが、皆様から の温かい応援のおかげで、ようやく全線復旧が見えてまいりました。

6 おわりに

運転を再開した区間では、少しずつではありますが着実にお客様の数が増えてきています。 震災前に行っていたイベントや、新たに企画したイベントなども開催することができるように なっています。

三陸鉄道のコーポレートスローガンは"笑顔をつなぐ、ずっと・・・"

これからも地域の皆様の笑顔をつないで走り続けます。

ぜひ新生三陸鉄道にご乗車いただき、三陸の旅をお楽しみくださるよう、社員一同心よりお 待ちいたしております。